

## 令和4年度第2回清瀬市総合教育会議

令和4年度第2回清瀬市総合教育会議が令和5年1月23日午後2時30分に招集された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

1. 日 時 令和5年1月23日（月）午後2時30分から
2. 場 所 清瀬市役所本庁舎 庁議室
3. 出 席 者 澁谷 桂司（清瀬市長）  
坂田 篤（清瀬市教育委員会教育長）  
宮川 保之（教育長職務代理者）  
粕谷 衛（教育委員）  
兵頭 扶美枝（教育委員）
4. 事 務 局 今村 広司（統括監 企画部長）  
南澤 志公（教育部長）  
紅林 兼一（教育部参事）  
宮本 央子（教育総務課長）
5. 書 記 立川 恭子（教育総務課）

## 議事日程

1. 開会
  
2. 協議事項
  - (1) 「学校管理職の経営力向上について」
  
  - (2) その他

閉会

## 総合教育会議

午後 2 時 3 0 分開会

(澁谷市長)

市長協議事項趣旨

学校管理職における経営力の向上について

校長の経営力を向上させる必要がある。

学校探訪 市報に学力調査の結果を掲載しているが、その反応はいかがか。

(坂田教育長)

学力調査結果の公開は学校間で刺激を受けあっている。

学年間の格差は実態としてあるが、学校内で共通の課題に取り組むことにより、格差を解消できると考える。

(宮川職務代理)

学校探訪は是とするべきである。

説明責任を果たすことは文化として必要である。

(兵頭委員)

市民の方が学校に興味関心をもつことはよい。

数値が学校の批判にならないようにしなければならない。

調査結果の分析を該当学年の教育課程に反映することが重要。

(粕谷委員)

掲載に至った経過がわかる人が見るのは良いが、数値が独り歩きしてしまうといった課題がある。数値について意見が出る場所だが、管理職にご理解いただいたうえで、市民の皆様にもどうしてこの記事に掲載しているのかといったことを発信していくことが必要。

(澁谷市長)

学校探訪は、情報公開の一つと考える。税金で運営されているため、市民の皆様に関心を持っていただくことは必要。社会総がかりとは市民の皆様に興味感心を持っていただかなければならない。その一つとして、よい足がかりと考える。来年度も継続し、学校の状況を市民の皆様にお知らせする。学校関係者にもこの取り組みの意図を自覚してもらいたい。

(坂田教育長)

数値だけではなく、改善視点や学校の特色も書かれており、情報が付加されている。情報発信としてはよかった。数値にフォーカスするのではなく、その数値を受けた改善点に注目すべきだ。ただし数値の取扱いについては、前年度と比較をする「個人内評価」等の導入についても、今後考えていく必要があるだろう。

(澁谷市長)

数値の中に「生命に対する考え方」という項目があるが、全校で全国平均及び都平均を上回っている。誇らしい。

教育委員会の様々な取り組み・事業に対して、効果が出てきている。

学年間の学力差が存在するなかで、どのように学力を伸ばしていくかということが学校経営である。児童・生徒に責任を転嫁してはならない。どんな状況にあっても、改善するのが市立学校の使命である。

(坂田教育長)

資料説明 (別添)

(宮川職務代理)

学校を支える仕組みを大学との包括的な連携協定を結ぶ中で、学校支援センターを学校内に設置し、先生方がオンラインで相談できる仕組みがあるとよい。横浜市では市内に4つのカリキュラムセンター設置しており、先生方は授業終わりにセンターへ行き、資料を探し、ティーチングプランについて相談できる仕組みがあり、清瀬でも新たな仕組みづくりをするのはどうか。

(兵頭委員)

管理職が必要と感じる研修も必要だが、人材育成や経営力向上については支えが必要。校長によるメンター制度や話し合いの場や、学びあいの場が必要。よりバックアップができる制度が必要。地域のご意見が入るようなシステムができれば、コミュニティースクール化が一層進むだろう。

(粕谷委員)

校長は教員であるだけでなく、経営者であり、その意識を持ってもらう。学校を切り離れた経営者としての視点が必要と考える。「学ぶ」は研修ではなく、学校と切り離れた「学び」が必要。

(澁谷市長)

教員間の指導力の濃淡がある。児童・生徒は先生を選べない。教員間の指導力格差を縮めること、教員全体の指導力向上が必要。トップリーダーセミナーについて説明

をお願いしたい。

(坂田教育長)

さまざまな人材を活用した、経営について学ぶ。完全任意型のオンラインセミナーの実施。学校教育の枠内で行う研修はあるが、経営に特化した研修は多くない。主体的に学ぶ姿勢、環境を作り出したい。

(宮川職務代理)

早急に実施すべき。都は新人教諭や主幹教諭に経営研修を実施している。今まで教育課題に特化した研修は多かった。

研修だけではなく、校長先生に対する個別の支援が必要。校長がアドバイスを受ける機会があるとよい。

(坂田教育長)

教育委員の方々の専門性をいかした形でアドバイザーとして個別具体的な相談や提案をしていただき、これをシステム化していく。

コロナ禍前に「教育委員とともに学びませんか」と題したリーフレットを作成した。保護者会等において無償で講演をしていただく等のシステムはできているが、コロナにより中止になっている。ここで再開させたい。

(兵頭委員)

学校経営アドバイザーという肩書が重い。専門性に限れば力になれる。

(澁谷市長)

様々な分野のアドバイザーが必要。教育委員のほかに適任があれば、幅広く人材を募ってほしい。

準備ができ次第、実施をしていただきたい。

(2) その他

(坂田教育長)

大学との包括協定を進めたい。教育に特化した大学との協定締結。最終的に市と大学と協定を結んでほしい。

(澁谷市長)

ぜひ進めてほしい。情報があれば共有したい。

(宮川職務代理)

すでに十文字大学とは結んでいる。協力支援を強固につくらないといけない。

(澁谷市長)

大学は研究機関でもあるので研究成果を社会にフィードバックすることが使命であると考えます。ぜひ連携を進めていきたい。

NTTはリモートで子どもたちへスポーツ指導をしている。企業が社会貢献している一例である。

民間企業による市内水泳指導も大変好評である。専門分野でご指導いただくことは効果的であり、連携が必要。

(宮川職務代理)

教育課題解決のため、十文字学園女子大学では6市と協定を結んでいる。

(坂田教育長)

知の共有をしていく。自治体間の人事交流。研修レベルでの交流等を実施したい。

第三者評価。他の自治体へ校長が行って評価するような相互評価ができるような広域行政システムができないか。市長の力を借りたい。

(澁谷市長)

双方で人事交流ができればよい。

(坂田教育長)

20歳の集いについて、市長の意見を伺いたい。

(澁谷市長)

来場者は礼節正しく、厳かにできた。今までと違った式でよかった。

20歳の人を祝福するのを市全体で祝福する機会にできるとよいと思っている。

以上

## 総合教育会議資料「校長・副校長の経営力を高めるための方策」

### 切磋琢磨することで高める

- 市戦による学力調査結果を含む学校情報（公）開【新】
- 学校選択に係る説明会の活用【新】
- 学校H30コンテエストの実施【新】

### 支えることで高める

- 校長会の機能強化（ベテラン校長によるメンター制度の導入）【新】
- 教育委員会△訪問の質的改善による教育委員会によるオーダーメイド型支援機能の強化【改】
- コミュニケーション強化による学校運営協議会制度を活用した支援機能の強化【新】

### 連携することで高める

- 大学など学術機関との連携による学力調査の調査方法と教育課程への反映【改】

### 学ぶことで高める

- 校長や副校長対象の経営力を高める研修の創設と充実【新】
- 学力向上など教育課題への対応に効果があった取り組みの水平展開【改】
- 市内外の優れた授業を参観するための研修出張の奨励【新】

### 認めることで高める

- 優れた学校経営者や授業実践者、学力改善の表彰制度の創設【新】

### 任せることで高める

- 特色予算や弾力的な教育課程の編成、実施の一層の機能化【拡】

